

20. 生活環境整備の計画手法

- 生活環境整備は、原則として①[]を単位として行う→集落整備計画、地区計画、集落活性化計画など
- 策定手順
 - 計画策定の体制づくり（むらづくり協議会など）
 - 調査・診断・啓発・学習（ワークショップの開催など）
 - 構想計画づくり（方針を定める）
 - 基本計画づくり（対策や施設を貼り付ける）
 - 実施計画
- 住民のニーズと意向を計画に反映させるために
 - 計画づくりにおいて、②[]と③[]が重要になってくる。

21. 計画づくりで考慮すべき点

- 計画策定に係わる専門技術課題
 - ①[]への依存：事業の導入を前提とした場合の計画づくりは、その事業制度（採択要件）に大きく依存する。特定の事業を前提とした地区計画（集落計画）もある。
 - ②[]の設定：理想に近い水準に持ち上げるか、現実的な水準にとどめるか？ニーズを読んで、プランナーが判断し、提案する。
 - 地域特性の配慮：地域の固有性や事情を如何に配慮するか？どこまで地域特性に配慮できるのかは、事業制度によるので、その知識も必要。
 - 施設の維持管理：生活環境施設の場合、施設の維持管理の問題が必ず付いてくる。誰がどのように施設を管理するかはプランナーにも責任がある
 - 計画の実現を担保するための努力：住民の自主的な協定は強力な実行手段。但し、合意が出来なければ実施できず、どこでもできるわけではない。
- 計画づくりを住民とともに進める際の留意点
 - 結局は住民のやる気次第。ここを如何にマネージするかは参加型計画づくりの正否を左右する
 - ③[]の共有：地域課題を理解し、それを共有する過程を重視する
 - 住民参加過程のデザイン：計画づくりは住民に対する働きかけである。如何に参加して、それをやる気につなげるかはファシリテータの腕
 - ④[]の確立：住民の誇りやよりどころ。事業を通じて強化する必要。

22. 農村総合整備における整備方式の特徴

- ①[]・・・最低限の整備水準を保証するが、「それ以上は地域の自力でやれ」という意味。今日的には、やや時代遅れの感がある
- ②[]・・・実施可能な工種メニューの中から地域側が選択実施できる点が自治体に喜ばれる。

23. 地域資源を生かした活性化

- 地域資源にはいろいろなものがある。その例を5つあげよ。

- ①[], ②[], ③[], ④[], ⑤[]
- したがって、その活用方法にもいろんなものが考えられる←アイデアが重要

24. グリーン・ツーリズムの登場

- 我が国でグリーン・ツーリズムという言葉が政府の公式文書にはじめて登場したのは、WTO体制への移行を想定して1992年に農水省が策定した「新しい食料・農業・農村政策」（いわゆる①[]）においてである。
- 農産物の国際的な市場競争に国内農業をゆだねるWTO体制のもとでは、中山間地域等の条件不利地域では、②[], 農村の荒廃が広がることが予想された。
- ①[]では、一方で「国際競争に耐えうる農業経営の体質強化」を急ぐと同時に、ヨーロッパの都市生活の間で定着している「農村地域での滞在型余暇活動（いわゆる③[]）」に注目し、中山間地域の活性化対策の柱に位置づけた。